

夏野菜の生産（生育）・出荷状況について

1. 夏秋キャベツ
2. たまねぎ
3. 夏だいこん
4. 秋にんじん
5. 夏はくさい
6. 夏秋レタス

[第7回野菜需給・価格情報委員会資料]

1. 平成22年産夏秋キャベツ(7月～10月)の出荷見通し

(1) 作付面積、生育状況の概要

平成22年6月末現在

	確定計画(22年6月作成)				生育ステージ			今年の出荷見通し	
	面積		出荷量					出荷開始と本格出荷の時期	期間全体を通した出荷見通し
	計画 (ha)	前年 実績比	計画 トン	前年 実績比	播種時期	定植時期	出荷時期		
全農群馬 県本部	3,185	100%	186,390	102%	3/上～8/中	3/下～8/下	6/上～11/中	準高冷地は5月末より出荷、6月下旬から出荷本格化、7月中旬がピーク。 大半を占める高冷地(JA嬭恋村)は6月13日から出荷開始、7月中旬より出荷本格化する。	高冷地(JA嬭恋村)は、3～4月の低温で初期成育が遅れたが、5月以降、気温の上昇と、適雨により生育は回復基調。
全農長野 県本部	850	103%	41,701	114%	(準高冷地) 2/中～7/上 (高冷地) 3/下～6/中	(準高冷地) 4/下～8/上 (高冷地) 5/上～7/中	(準高冷地) 6/中～10/下 (高冷地) 7/下～10/上	準高冷地は6月から出荷開始、高冷地は7月下旬から出荷開始となる。 本格出荷は7月中旬以降。	キャベツについては前年並みの作付け。 グリーンボールのみ、一部産地で作付けが増加。
ホクレン	603	99%	24,580	104%	(春まき) 4/下～5/中 (晩春まき) 5/上～6/上 (初夏まき) 6/上～6/下	(春まき) 5/下～6/上 (晩春まき) 6/上～7/上 (初夏まき) 7/上～6/下	(春まき) 7/上～7/下 (晩春まき) 8/上～9/中 (初夏まき) 9/中～10/下	道外への出荷開始は、7/10前後の見込みで平年より1週間～10日前後の遅れ。 出荷のピークは7月下旬～9月下旬(おおむね平年並み)となる見通し。	多雨の影響で収量が少なく、出荷量が減少した前年を上回る見通し。
その他	1,058	114%	43,060	95%					
対象県 共販計	5,696	103%	295,731	106%					

○ コメント

作付面積:	全体的には微増。主産県の全農群馬、ホクレンではほぼ前年並み。 全農長野では普通のキャベツは前年並みであるが、グリーンボール分は増加している。
生育状況:	3～4月の天候不順の影響で高冷地ではやや成育が遅れたが、その後回復してきている。 一方、ホクレンでは、天候不順により1週間～10日前後生育が遅れている。

(2) 主産県の月別出荷見通し

	単位:トン	7月	8月	9月	10月	計
全農群馬県本部	22年見通し	40,630	53,070	53,290	33,080	180,070
	前年比	101%	100%	108%	105%	102%
	3年平均比	110%	101%	102%	101%	103%
全農長野県本部	22年見通し	12,423	8,577	9,849	8,679	39,528
	前年比	114%	114%	124%	106%	114%
	3年平均比	110%	106%	107%	100%	106%
ホクレン	22年見通し	5005	6,027	5,986	5,304	22,322
	前年比	101%	109%	108%	105%	104%
	3年平均比	92%	86%	92%	106%	93%
計 (上記3県)	22年見通し	58,058	67,674	69,125	47,063	241,920
	前年比	104%	102%	110%	105%	104%
	3年平均比	108%	100%	102%	101%	103%

- ・月別出荷見通しは確定計画の対象県共販計、対象市場計の数字。
- ・3年平均は、平成19年～21年の実績の平均。
- ・22年見通しは、22年6月末策定の確定計画。

○コメント

出荷見通し:	<p>全体的には、前年、平年をやや上回る見通し。</p> <p>全農群馬については、期間トータルでは前年、平年をやや上回る見通しであるが、特に9月は、少なかった前年を大きく上回る見通し。</p> <p>全農長野については、前年を大きく上回り、平年よりもやや多くなる見通し。</p> <p>ホクレンについては、前年を上回るが、平年を下回る見通し。</p>
--------	--

[第7回野菜需給・価格情報委員会資料]

2. 平成22年産たまねぎ(7月～10月)の作付面積・生育状況の概要

(1) 作付面積、生育状況の概要

平成22年6月末現在

	確定計画(22年6月作成)				生育ステージ			今年の出荷見通し	
	面積※①		出荷量※②					出荷開始と本格出荷の時期	期間全体を通した出荷見通し
	計画 (ha)	前年 実績比	計画 トン	前年 実績比	播種時期	定植時期	出荷時期		
ホクレン	4,060	101%	137,614	116%	早生: 2月上～2月末 中生: 2月上～2月末	早生: 4月中～5月上 中生: 4月中～5月上	早生: 9月上～11月末 中生: 11月上～4月末	極早生については、8月から出荷が始まるが、本格化するのは9月以降。	これまでの天候推移により、各作型で7～10日前後の生育遅れが見られる。夏の長期予報も不安定であり、生育・作柄状況に注視している。
JAさが	1,937	104%	25,352	133%	早生: 9月下～ 中生: 9月下～ 晩生: 9月下～	早生: 11月中～ 中生: 11月下～12月下 晩生: 11月下～12月下	早生: 4月中～5月上 中生: 5月下旬～ 晩生: 6月上～	現在は晩生のお荷。出荷本格化は7月～8月の期間。	作付面積の増加もあったが、3～4月の天候不順等により、玉肥大は平年並みからやや小さい状態。今後の出荷量については少なかつた前年を上回るが、概ね平年並みの出荷を見込む。
全農兵庫 県本部	1,379	96%	29,910	110%	早生: 9月下～ 中生: 9月下～ 晩生: 9月下～	早生: 11月上～ 中生: 11月下～12月下 晩生: 11月下～12月下	早生: 5月上～ 中生: 6月上～ 晩生: 6月中～	5月上旬より出荷が始まり、7月～8月がピークとなる。	早生、中生とも生育期間中に天候不順の影響をうけ、少なかつた前年並みの出荷となつた。晩生以降については、前年を上回るが、平年並みの出荷を見込む。
その他	2,133	99%	27,252	116%	※① 表中の面積については、21年9月当初計画時点の4月～10月出荷分。 ※② 22年6月末に策定した供給計画のうち、7～10月分の合計				
対象県 共販計	9,509	100%	220,128	117%					

○ コメント

作付面積:	全体的には前年並み。ただし、JAさがでは、機械化により一部で作付け面積が増加している。特に増えているのは、5月中旬以降に出荷する作型。全農兵庫では、昨年の高値にも関わらず、高齢化等により作付面積は減少。
生育状況:	JAさが、全農兵庫では、定植期の前年11月前後の天候不順で作業が遅れたほか、3～4月の天候不順により生育が遅れているが、6月に入ってから安定した気象推移により、回復傾向。 ホクレンは、融雪遅れ、天候不順により、定植作業が遅れたことにより、生育も平年より7日～10日前後遅れている。

(2) 主産県の月別出荷見通し

	単位:トン	7月	8月	9月	10月	計
ホクレン	22年見通し	0	14,500	54,162	68,952	137,614
	前年比	0%	102%	121%	115%	116%
	3年平均比	0%	102%	108%	111%	109%
JAさが	22年見通し	12,665	11,006	1,581	100	25,352
	前年比	113%	152%	241%	476%	133%
	3年平均比	100%	108%	68%	37%	100%
JA全農兵庫	22年見通し	14,780	12,030	1,950	1,150	29,910
	前年比	106%	105%	158%	202%	110%
	3年平均比	117%	98%	56%	126%	102%
計 (上記3県)	22年見通し	27,445	37,536	57,693	70,202	192,876
	前年比	109%	114%	124%	116%	117%
	3年平均比	109%	102%	103%	111%	106%

- ・月別出荷見通しは確定計画の対象県共販計、対象市場計の数字。
- ・3年平均は、平成18年～20年の実績の平均。
- ・22年見通しは、22年6月末策定の確定計画(計画変更)。

○ コメント

出荷見通し:	7月～8月(北海道産の出回り前)についてはJAさが、全農兵庫とも不作の前年を大きく上回り、平年をやや上回る出荷量を見込んでいる。 9月以降(北海道産の出回り後)については、ホクレンでは不作であった前年、および平年を上回る出荷量を見込んでいる。
--------	--

[第7回野菜需給・価格情報委員会資料]

3. 平成22年産夏だいこん(7月～9月)の作付面積・生育状況の概要

(1) 作付面積、生育状況の概要

平成22年6月末現在

	確定計画(22年6月作成)				生育ステージ			今年の出荷見通し	
	面積		出荷量					播種時期	定植時期
	計画 (ha)	前年 実績比	計画 トン	前年 実績比					
ホクレン	1,511	105%	60,651	111%	春まき 4/下～5/下 初夏まき 6/下～7/中 夏まき 7/上～7/下		春まき 6/中～8/下 初夏まき 8/中～9/上 夏まき 9/上～10/中	出荷開始については、例年6月中旬からであるが、天候不順により、遅くなる可能性が高い。出荷のピークは概ね平年並みで8月下旬～9月を見込む。	出荷量は前年を上回る見通し。(前年は、天候不順により、播種が遅れたほか、発芽生育不良など一般的に不作の年となっている。)
全農青森 県本部	506	100%	12,490	100%	5月～7月		7月～11月	天候不順により、1週間程度の初期成育の遅れが見られたが、その後の天候の回復で生育も平年並みまで回復。本格出荷は8～9月。	前年並みの出荷を見込む。
全農岐阜 県本部	102	94%	4,500	123%	春まき 4/上～5/中 初夏まき 5/上～5/下 夏まき 5/下～8/上		春まき 6/中～ 初夏まき 7/上～ 夏まき 7/下～	6月から出荷が始まるが、出荷本格化するのは、7月中旬以降。	各作型ともに低温の影響により、3～5日生育が遅れている。少なかった前年を上回り、平年並みの出荷を見込む。
その他	682	100%	14,255	112%					
対象県 共販計	2,801	103%	91,896	110%					

○ コメント

作付面積:	ホクレンは微増し、その他は前年並み。
生育状況:	3～4月の天候不順(融雪遅れ、低温、降雨)により、ホクレン、全農岐阜では生育遅れなどの影響がでていますが、全農青森では生育遅れは回復基調にある。

(2) 主産県の月別出荷見通し

	単位:トン	7月	8月	9月	計
ホクレン	22年見通し	16,005	20,343	24,303	60,651
	前年比	110%	111%	113%	111%
	3年平均比	98%	106%	106%	104%
全農青森県本部	22年見通し	3460	3,640	5,390	12,490
	前年比	99%	113%	93%	100%
	3年平均比	54%	65%	73%	65%
全農岐阜県本部	22年見通し	1800	1,100	1,600	4,500
	前年比	126%	120%	122%	123%
	3年平均比	110%	82%	101%	99%
計 (上記3県)	22年見通し	21,265	25,083	31,293	77,641
	前年比	109%	111%	109%	111%
	3年平均比	87%	96%	98%	94%

- ・月別出荷見通しは確定計画の対象県共販計、対象市場計の数字。
- ・3年平均は、平成19年～21年の実績の平均。
- ・22年見通しは、22年6月末策定の確定計画。

○ コメント

出荷見通し:	全体的には、前年を上回り、平年を下回る出荷量となる見込み。(前年は天候不順により、北海道を中心に平年を大きく下回る出荷量となった。)ただし、青森県は前年並みの出荷量を見込む。
--------	---

[第7回野菜需給・価格情報委員会資料]

4. 平成22年産秋にんじん(8月～10月)の作付面積・生育状況の概要

(1) 作付面積、生育状況の概要

平成22年6月末現在

	確定計画(22年6月作成)				生育ステージ			今年の出荷見通し	
	面積		出荷量					出荷開始と本格出荷の時期	期間全体を通じた出荷見通し
	計画 (ha)	前年 実績比	計画 トン	前年 実績比	播種時期	定植時期	出荷時期		
ホクレン	2,367	101%	60,504	109%	春(晩春)まき 4/下～5/下 初夏(夏)まき 6/上～6/下		春(晩春)まき 7/中～9/下 初夏(夏)まき 10/上～10/下	出荷開始については、例年7月中旬からであるが、天候不順による作業遅れや生育遅れにより、遅くなる可能性が高い。出荷のピークは概ね平年並みで8月下旬～10月上旬を見込む。	面積は微増傾向。 天候不順(とくに降雨、低温)により、出荷量が減少した前年を上回る出荷量となる見通し。
北海道 青果商協	1,518	98%	34,555	109%	同上		同上	天候不順により、播種作業が遅れていたが、その後の気温上昇により生育状況としては、遅れを取り戻しつつある。 7月からの出荷開始を見込む。	作付面積は指定産地分は前年並み。 期間トータルの出荷量としては、平年並みを見込む。
全農青森 県本部	120	100%	2,288	101%	5月～7月		8月～11月	目だった遅れもなく、平年並みの出荷開始を見込む。	平年並み。
対象県 共販計	4,005	100%	97,347	109%					

○ コメント

作付面積:	概ね、前年並み。ホクレンでは微増傾向。
生育状況:	北海道では、春先の天候不順(降雨、低温)、融雪遅れ等により、播種作業が5～10日程度の遅れとなっているほか、発芽、生育も遅れており、生育状況も平年より1週間程度遅れている。 全農青森では、目だった遅れもなく、平年並みの生育状況。

(2) 主産県の月別出荷量見通し

	単位:トン	8月	9月	10月	計
ホクレン	22年見通し	17,846	21,451	21,207	60,504
	前年比	112%	108%	106%	109%
	3年平均比	103%	112%	103%	106%
北海道 青果商協	22年見通し	10098	12,223	12,234	34,555
	前年比	102%	122%	105%	109%
	3年平均比	103%	130%	104%	112%
全農青森県本部	22年見通し	523	395	1,370	2,288
	前年比	152%	110%	88%	101%
	3年平均比	36%	79%	56%	52%
計 (上記3県)	22年見通し	28,467	33,069	34,811	97,347
	前年比	109%	126%	105%	109%
	3年平均比	100%	114%	100%	105%

- ・月別出荷見通しは確定計画の対象県共販計、対象市場計の数字。
- ・3年平均は、平成19年～21年の実績の平均。
- ・22年見通しは、22年6月末策定の確定計画。

○ コメント

出荷見通し:	<p>本年は、春先の天候不順により、生育遅れも見られるが、北海道産は前年および平年を上回る出荷が見込まれる。</p> <p>全農青森は平年を下回り、前年並みの出荷となることが見込まれる。</p>
--------	---

[第7回野菜需給・価格情報委員会資料]

5. 平成22年産夏はくさい(7月～9月)の作付面積・生育状況の概要

(1) 作付面積、生育状況の概要

平成22年6月末現在

	確定計画(22年6月作成)				生育ステージ			今年の出荷見通し	
	面積		出荷量					出荷開始と本格出荷の時期	期間全体を通した出荷見通し
	計画 (ha)	前年 実績比	計画 トン	前年 実績比	播種時期	定植時期	出荷時期		
全農長野 県本部	1,420	96%	84,614	99%	準高冷地 2/下～5/中 7/上～8/上 高冷地 3/下～7/下	準高冷地 3/下～6/中 7/下～8/下 高冷地 5/上～8/中	準高冷地 5/下～7/下 9/中～11/上 高冷地 7/下～10/下	5月下旬から出荷開始となるが、県内各産地が出揃ってくるのは、7月上～中旬となる。	作付けは、盛夏期出荷分はやや前年を下回り、秋以降は前年並みの見通し。 3～4月の低温で初期成育のものに影響があり、6月出荷は前年を下回るが、7月以降は順調な出荷を見込む。
ホクレン	226	96%	8,450	106%	春(晩春)まき 4/中～5/下 初夏(夏)まき 2/下～8/下	春(晩春)まき 5/下～6/下 初夏(夏)まき 7/上～8/下	春(晩春)まき 7/上～8/中 初夏(夏)まき 8/下～10/下	7月上旬ごろから出荷が開始し、ピークは8～9月ごろとなる。	近年の価格低落により、面積は減少傾向。7～9月は、多雨により出荷量が落ち込んだ去年を上回る見通し。
全農群馬 県本部	187	102%	3,385	95%	2/下～8/下	3/下～9/上	5/下～11/上	5月下旬から出荷開始となり、ピークは6月下旬ごろからで、7月はピークを過ぎて漸減していく。	低温、早ばつにより初期成育が遅れていたが、その後5～6月の気象状況で回復、6月中旬実績は前年を上回った。
対象県 共販計	1,833	96%	96,449	100%					

○ コメント

作付面積:	近年の価格低落により、漬物加工需要が大半となる盛夏期分の出荷については作付面積が減少傾向にある。
生育状況:	全農長野、全農群馬では3～4月の天候不順により、生育や作業に遅れが見られたが、6月に入ってから安定した気象推移により、生育状況は回復してきている。

(2) 主産県の月別出荷量見通し

	単位:トン	7月	8月	9月	計
全農長野県本部	22年見通し	23,172	24,695	36,747	84,614
	前年比	96%	99%	102%	99%
	3年平均比	89%	97%	98%	95%
ホクレン	22年見通し	1420	2,517	4,513	8,450
	前年比	103%	109%	105%	106%
	3年平均比	121%	112%	129%	122%
全農群馬県本部	22年見通し	1405	825	1,155	3,385
	前年比	97%	95%	93%	95%
	3年平均比	110%	109%	120%	113%
計 (上記3県)	22年見通し	25,997	28,037	42,415	96,449
	前年比	96%	100%	102%	99%
	3年平均比	91%	98%	101%	97%

- ・月別出荷見通しは確定計画の対象県共販計、対象市場計の数字。
- ・3年平均は、平成19年～21年の実績の平均。
- ・22年見通しは、22年6月末策定の確定計画。

○ コメント

出荷見通し:	<p>前年は7月下旬～8月に天候不順となり、出荷量が減少した。</p> <p>今年は長野県の盛夏期の作付けが減少していることから、前年並みで、平年を下回る出荷量が見込まれる。</p> <p>9月は、天候が順調に推移すれば、前年および平年並みの出荷量となることが見込まれる。</p>
--------	--

[第7回野菜需給・価格情報委員会資料]

6. 平成22年産夏秋レタス(6月～10月)の作付面積・生育状況の概要

(1) 作付面積、生育状況の概要

平成22年6月末現在

	確定計画(22年6月作成)				生育ステージ			今年の出荷見通し	
	面積		出荷量					出荷開始と本格出荷の時期	期間全体を通じた出荷見通し
	計画 (ha)	前年 実績比	計画 トン	前年 実績比	播種時期	定植時期	出荷時期		
全農長野 県本部	4,380	99%	129,148	102%	準高冷地 4/上～6/上 7/上～8/上 高冷地 3/中～7/中	準高冷地 4/下～6/下 7/下～8/下 高冷地 4/下～8/上	準高冷地 6/中～8/上 9/上～8/下 高冷地 6/下～10/中	準高冷地から5月中旬ごろから開始される。 高冷地は6月下旬ごろから出荷開始される。 出荷が本格化するのは6月下旬から9月の期間。	結球レタスの作付は前年並みからやや微増傾向。 5月～6月初旬までは天候不順により生育が遅れていたが、6月中旬からは作柄回復し、順調な出荷になっている。
全農群馬 県本部	576	97%	18,125	103%	2/下～8/上	3/下～8/下	5/上～11/	5月中下旬より出荷開始し、出荷が本格化するのは6月から9月の期間。	作付面積は微減傾向。 天候不順により生育が遅れていたが、6月に入って回復し、前年並みの出荷ペースになった。 以降も順調な出荷を見込む。
全農茨城 県本部	530	100%	11,834	100%	8/上～8/中	8/中～9/中	10/上～10/下	9月下旬から出荷がはじまり、10月に本格化する。 前年は冷夏で初期成育期間の低温がレタスの生育に適したため生育が早まり、9月出荷が平年の倍近くになった。	作付面積は前年並み。
その他	637	102%	12,810	118%					
対象県 共販計	6,123	99%	171,917	103%					

○ コメント

作付面積:	レタス全体では、面積は微減傾向。結球レタス分については、全農長野では、前年並みからやや微増。
生育状況:	3～4月の天候不順により、各地で生育遅れが見られた。天候回復により、6月中旬以降急速に生育が追いついてきている。 7月出荷以降のものに関しては、降雨などの影響もみられるが、現時点では概ね生育環境は良好となっている。

(2) 主産県の月別出荷量見通し

	単位:トン	6月	7月	8月	9月	10月	計
全農長野県本部	22年見通し	22,418	32,225	29,820	32,855	11,830	129,148
	前年比	92%	103%	111%	103%	91%	102%
	3年平均比	98%	101%	102%	107%	101%	102%
全農群馬県本部	22年見通し	5,023	4,300	3,735	3,450	1,617	18,125
	前年比	99%	102%	111%	99%	107%	103%
	3年平均比	106%	104%	100%	112%	105%	105%
全農茨城県本部	22年見通し	100			451	11,283	11,834
	前年比	97%			71%	101%	100%
	3年平均比	72%	-	-	118%	102%	103%
計 (上記3県)	22年見通し	27,541	36,525	33,555	36,756	24,730	159,107
	前年比	93%	103%	111%	102%	96%	102%
	3年平均比	99%	101%	102%	107%	102%	102%

- ・月別出荷見通しは確定計画の対象県共販計、対象市場計の数字。
- ・3年平均は、平成19年～21年の実績の平均。
- ・22年見通しは、22年5月末策定の確定計画。

○ コメント

出荷見通し:	7～8月は、全県的に天候不順で出荷量が減少した前年を上回り、平年並みの出荷量となることが見込まれる。 10月以降に関しては、多かった前年を下回り、平年並みの出荷量となることが見込まれる。
--------	--